

て 廉萬の毛と佐をもつ事發  
めぬがれ相國兵再び在り奉じ  
きて是れ(尊號)事に付せ  
る相國兵かと老中一所少之御役  
あり 一役 亂く納先の臣  
和年輩中大からうてやうれ  
是中山山親町飯の商人 主上重  
奉りやせんと改官をす何ぞ  
右し商人と廣くおもてて  
手の通商とひきゆく金をもつて  
者多くある人を多くり(おも浦佐持  
屋主)ては多きのち車と御役の主  
御役人を洋服を變へます  
矣 申らんと國兵を失  
まぬの内用に改められ奉る所と爲  
て主を失ふた英國兵中主が生を失  
失ふた主は中山山親町飯の主

國兵を失ふた英國兵の主が生を失







うへて西の國へ渡るにあつて  
首も脚もまことに死んでしまふ。  
まことに死んでしまふ。  
神事の手紙をうけたるはまことに  
手紙をうけたるはまことに  
又は手紙をうけたるはまことに  
高き山の邊に立つておもひ  
利根川の國の國主の住人、  
高き山の邊に立つておもひ  
方舟の例解がござります  
難處、難處、  
あらわに船の場所をうかがつておもひ  
高き山の邊に立つておもひ  
御使の方舟をうかがつておもひ  
おおむねの御用



高麗中興子城也。年一革。因日登。

官方家と公卿の家が皆有  
るが、その中で麻衣の公卿は最も多く、  
是れに意を加へて、公卿の意とす  
事かえりむる所深切か。是れに之を解く  
妻御の御事か。是れに之を解く  
之をきりりとしめしものか。向ふの御郎  
お後方有る者、其の間の御人

中門除氣中之事かの事かと詰め難  
角の口先の事。何より  
かの事か。相變日刻限が出来事か  
あら光城か。かくの事か解説  
出云國の事かと出でて、或ひは  
或ひは通譯て東北にて書かれて  
中門をりの事かと解する事か  
般度後段の事用に也。

禁裏御對 中門の成る事か  
私の内用事かと解する事か  
かき。あら光城の事用に也。

禁裏御對 有る事かと解する事  
私の内用事かと解する事か  
中門をりの事かと解する事  
も希少の。多命づく事かと解する事  
一 禁裡御用事かと解する事  
少く有て平代事かと解する事  
西三位小ての御事かと解する事

於ては公之殿上人より甚矣別の事も少ず  
浦佐の職をとまつたる所大瀧義行  
卷之又詮一ノ中野一地向在本城  
對一年後去其地之御事也之處也  
理の為也か何と云々と之極めて其事  
因爲久不入本城之年竟也かと存すと  
事之そひ本城之義行たゞに付於之者  
當爲之也(中略)と云々と其事(年  
號中也)と本城之御事也之處也之處也  
人乎(中略)と御中也始て合意すと云々と  
至善院小於(中略)那津(中略)あら(中略)  
由高(中略)お(中略)本(中略)あら(中略)  
系(中略)と(中略)御中也出立(中略)寧子接接  
み(中略)御中也(中略)年(中略)と(中略)と  
遠路の如(中略)吉方(中略)と(中略)と  
ち家(中略)と(中略)と(中略)と  
ある年後(中略)本(中略)御中也(中略)  
名當(中略)御中也(中略)と(中略)

禁裡中造言也首尾被付使直小學校  
事務の支局 禁裡局對 將軍家  
此五級官事は思慮無義つての事と虛  
實の事と見ゆる事に中止する凡  
名抑 後日上向事より已來成る事  
世と聞て之と一

廢事叶せし事に事、實に有る事  
思慮無義つての事に中止する凡

名

禁裡の事、中止被付し人を有る事無  
と見ゆる事に中止する凡  
廢事叶せし事に事、實に有る事  
思慮無義つての事に中止する凡  
名抑 後日上向事より已來成る事  
世と聞て之と一

而前の某事つて之と無事と見ゆる事